



例

EAX	00000000	CL
ECX	0012FFB0	CH
EDX	7FFE0304	CX
EBX	7FFDF000	
ESP	0012FFC4	

CXが「FFB0」ならば、CHは「FF」、CLは「B0」である。



あー、それと。ESI,EDIの下位16ビットはSI,DIだけど、この上位8ビット,下位8ビットは直接扱えないの。つまり、SH,SL,DH,DLというような表記は出来ないよ。



ほほう。なんかあっちはできて、こっちは出来ないとか、ややこしいな。



そうね。もともとSIとDIは、Source Index(転送元のindex)とDestination Index(転送先のindex)の略で、SIの指すメモリから、DIの指すメモリへ転送するのに使われることが多かったの。



ふむふむ。



どちらも16ビットのアドレスを指す為に使っていたから、SI,DIを8ビットずつに分解することは出来なくてよかったの。これが32ビットプロセッサで、ESI,EDIに拡張されて、SI,DIというアクセスの仕方は互換性のために残されてるもの、8ビットずつには分解する方法は提供されないままね。だから、SI,DIの上位8ビット,下位8ビットは直接扱えないの。



ほほう。なるほど。



あと、何だっけ？ EIPとESPが何か言ってたと思うけど。



うん。EIPはインストラクションポインタ。^{※3}

※3 インストラクションポインタ(instruction pointer)

「インストラクション」とは「命令」を意味する。「ポインタ」とは「指すもの」である。つまり、「インストラクションポインタ」とは、「命令を指すもの」の意味である。EIPは、これから実行される命令を指している。